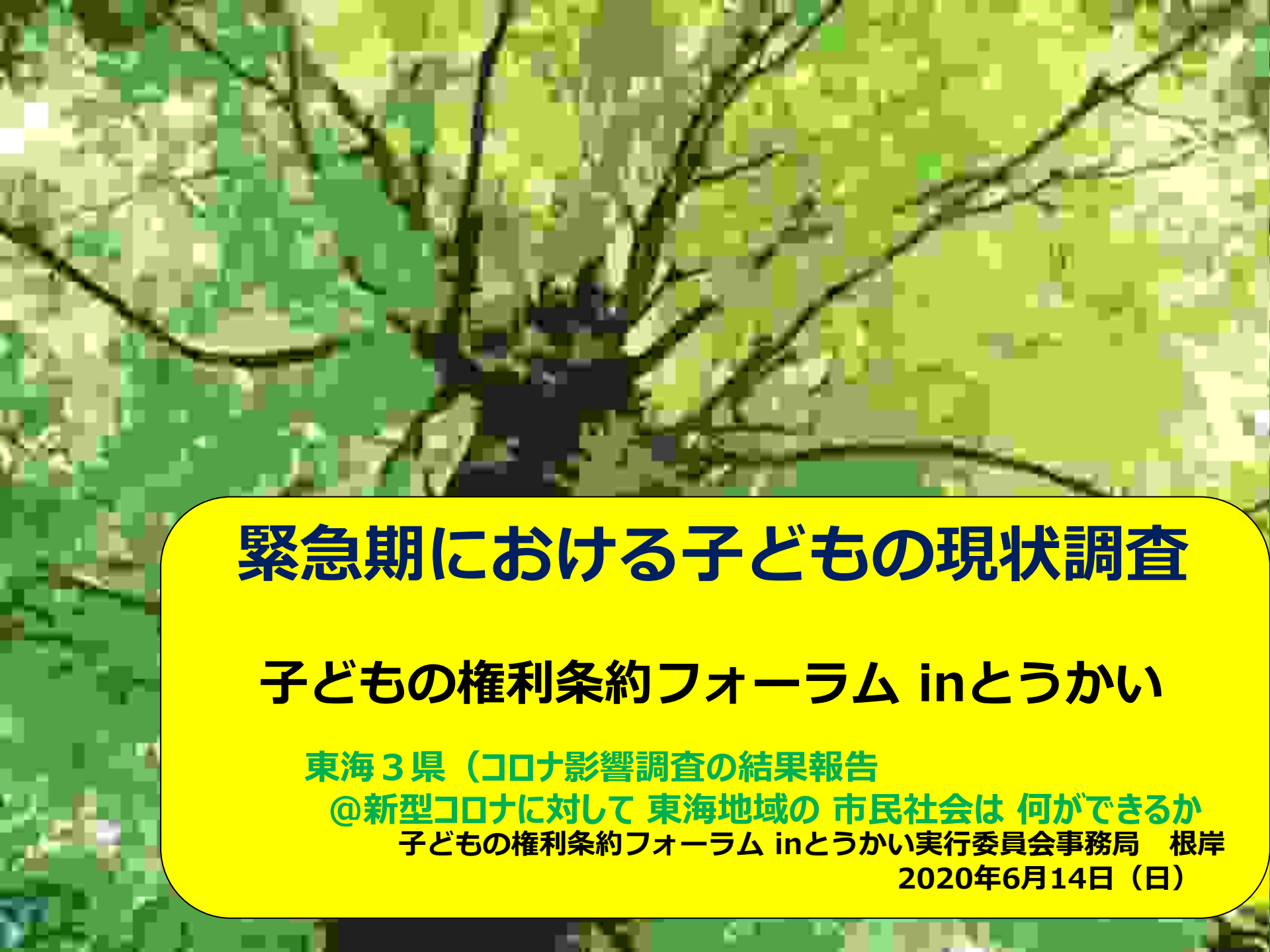




緊急期における子どもの現状調査

子どもの権利条約フォーラム inとうかい

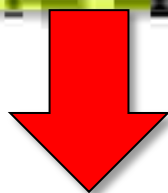
東海3県（コロナ影響調査の結果報告

@新型コロナに対して 東海地域の 市民社会は 何ができるか

子どもの権利条約フォーラム inとうかい実行委員会事務局 根岸

2020年6月14日（日）

子どもの権利条約フォーラム inとうかい



**2019年 子どもの権利条約
国連採択30周年・日本批准25周年**

**「子どもの権利」の普及→全国的な動き
東海地区（あいち・ぎふ・みえ）で発足**

子どもの権利条約フォーラム inとうかい



子どもの権利条約 子どもの基本的人権を 国際的に保障するために定められた条約

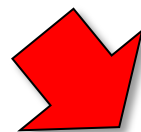
18歳未満の児童（子ども）を権利をもつ主体と位置づけ、
おとなと同様ひとりの人間としての人権を認めるとともに、
成長の過程で特別な保護や配慮が必要な
子どもならではの権利も定めている。

1989年の第44回国連総会において採択され、1990年に発効。
日本は1994年に批准。

子どもの権利条約フォーラム in とうかい

報告会や**フォーラム**の実施
(国連子どもの権利委員会審査報告報告会
→2019年6月実施)
(**フォーラム→2020年3月**
コロナウイルス感染拡大のため中止)

政策提言



**コロナショックの現状下緊急期プロジェクト
の発足**

【1】緊急期プロジェクトヒアリング 主旨

新型コロナウイルス感染拡大対策に関する政策によって、子どもたちの過ごす環境が大きく変容しました。

このような緊急期には、普段抱えている課題や実情が表出します。

平常時から子どもたちの身近にいて子どもたちの活動を支えている私たちは、市民の一員である子どもたちが社会から置去りにされないよう、この緊急事態下の子どもたちの声を直接間接に聴き取りました。

【2】緊急期プロジェクトヒアリング 方法

- 主に児童館の職員、居場所・学習支援のスタッフ、プレーパークプレーリーダーが職場とその周辺で直接にヒアリング。
- アドボケイトが地域各地で、直接子どもたちからヒアリング。
- またこれらの大人がネット、ラインを通して行った。

【3】緊急期プロジェクトヒアリング フェーズ

緊急期フェーズとヒアリング件数

フェーズ1	緊急期早期（自粛期前半 休校・休園措置下 ）
3月2日～3月25日	164件（1日平均 <u>6.8</u> 件）
フェーズ2	緊急期2期（自粛期中盤）
3月26日～4月9日	34件（1日平均 2件）
フェーズ3	緊急期3期（自粛期後半 緊急事態宣言下 ）
4月10日～5月25日	39件（1日平均 <u>0.8</u> 件）
フェーズ4	（緩和期 緊急事態宣言解除 ）
5月26日～5月31日・・・	
フェーズ5期	（緩和期 休校・休園措置解除 ）
6月1日～	

フェーズ〇期（**第2波 緊急事態宣言下**）

【4】緊急期プロジェクト コロナ緊急期の特性

- 緊急期の政策下では、**すべての起点である当事者の声**<子どもの声>が拾いづらい局面に
- 有事だからといって、急に声をあげることができない。

**<何が起きているのか、
当事者の言葉にならない声>**

平時の関係性・つながり・場づくりが大切

【5】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

ヒアリングの方針（ヒアリングシートの場合）

- ヒアリングはあくまでも子どもの意見を、
そのまま聴き、深掘り

例) ヒマ → どうして? → やることがないから →
そんな時はどうしてるの? → こんなことをしている → そ
れをしてる時はどんな気持ち?

- ヒアリングをする時に、**子どもの意見を誘導しない**

例) こんなことになっているのは、
誰が悪いと思う? お家の人や友達と一緒にの方がいいよね?

- ヒアリング内容をそのままに。
そこに足したり引いたりしない。（主観で編集しない）

【5】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

フェーズ1 緊急期早期 3月2日～3月25日

乳幼児

- ・「もっと遊びたい」「外にもっと行きたい」
- ・緊急期早期は互助関係ができている保護者の家庭の乳幼児が過ごす環境は比較的良かった。
しかし、時間が経つにつれて、保護者の疲れや不安が増しピークに達しつつある。
- ・地域近隣の住民から出歩くなと言われるケースなどもあり、子どもが過ごす環境への理解がない地域もある。

【5】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

フェーズ1 緊急期早期 3月2日～3月25日 小学生

- ・「友達と会えなくてヒマでしかたない。早く学校が始まってほしい」 **「突然休みにになって悲しい」**
 - ・ **「新学期からもう学校には行きたくない。もとの生活に戻ることが面倒に感じる。」**
 - ・「学校に行かなくて良くなってうれしい」「ゲームができてうれしい」「でも宿題が多くて困る」
 - ・「ゲームをやりすぎて飽きるほどだ。」
- ・ 児童館に来館する **小学3～6年の約7割は家に誰もいない。**
その中の約5割は食事は用意されていない。

【5】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

フェーズ1 緊急期早期 3月2日～3月25日

中学生

- ・「公園に人があふれている」「遊ぶ場所がない」
- ・「ごはんが食べられる場所を緊急につくってほしい」
- ・「昼夜逆転している」
- ・「相談する場所がない」「相談事業所に行っても追い返された。これから身近な大人のところに相談に来る。」
- ・児童館に来館する中学生の約半数が、主食が菓子類。

高校生

- ・「カラオケに頻繁に行く」
- ・「バイトの収入が減って困っている」

【５】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

フェーズ2 緊急期 2期 3月26日～4月9日

小学生

- ・「特に困っていることはない」
「毎日家で過ごすのは楽しい」
- ・「家にはだれもいない」
「お腹が減って困る。一度に食べる」
「学校はずっと休みでも本当はいいけど、
給食のために行く」

【5】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

フェーズ2 緊急期 2期 3月26日～4月9日

中学生

- ・「仲間とゲームをしたり、出かけたりしている」
- ・「誰かの家には集まらない」
- ・「友達とはネットゲームでつながっている」
- ・「家に誰もいない」
- ・「課題がたくさんありやり、きれない」

高校生

- ・「バイトがなくなり、家に入れるお金がない」
- ・「生活するお金が減って困る」

【5】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

フェーズ3 緊急期3期 4月10日～5月25
小学生

- ・「学童などに行くよりも、家にいる方が自由でいい」
- ・「家にいても苦にはならない」
- ・「おうちの人が在宅勤務でも、だれも相手をしてくれない」「おうちの人が時差出勤で家にだれもいない時間帯がある」
- ・「おうちの人がいても、仕事をしているから一人では宿題をやりきれない」

【5】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

フェーズ3 緊急期3期 4月10日～5月25日
小学生

- ・「朝遅く起きるようになってきているから、学校が始まっても行けるか**心配**」
- ・「家の前で遊んでいると近所の人に注意される」
- ・「緊急事態宣言で、友達と遊べなくなって残念」
- ・「学校に行って、友達に会いたい」

【５】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

フェーズ３ 緊急期３期 ４月１０日～５月２５日
中高生

- ・「課題は郵送されてくる」
- ・「生活リズムはバラバラ」
- ・「**ストレス**がたまって発散するところがない」
- ・ **部活・大会・行事が中止**になり、部活に比重を置いている学生への影響が大きい。

【５】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

フェーズ３ 緊急期３期 ４月１０日～５月２５

保護者

「この状況が続くと、虐待してしまうと思う」

【５】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

社会状況とヒアリングの照合性

フェーズ１ 緊急期早期（自粛期前半休校・休園措下）
声を聴く意識がある大人が、一定数の声を拾う

フェーズ２ 緊急期２期（自粛期中盤）

フェーズ３ 緊急期３期（自粛期後半 緊急事態宣言下）

社会状況：表面化する子ども・若者事件

ヒアリングから：

ますます声が拾いづらくなる

親子関係によっては、より追い詰められた状況に
（安心して過ごす住環境がなく・連絡をとる意欲もなくなる）

【5】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

★家庭内労働を負うヤングケアラー（主に中高生）にとっては、学校休校の措置は、逃げ場がないという非常に困難な状況。

★家に食事やお金など生きるために必要なものを置いてもらえず放置されている中高生がふらりと立ち寄るケースが増えたが、その気配を感じるまでに留まった。

しかし、そういった幼児・低学年層の気配は感じることはできない＝そういった子どもたちの声が拾えていない。

【5】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

- ★**子どもの声を聞くことが必要だという意識がある大人**との関わりがない子どもの声は拾えない状況。
- ★保護者の意向で、情報が**遮断**された子どもも。友人経由でしか情報を得ることができない。
- ★**学校や相談機関の代替機能**として、学習支援事業のスタッフが子どもの困りごと（進学について等）に対して緊急的に動く場面もあった。多機関をつなぎ、家族会議を開くに至った場面もあった。

【5】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

★家に居続け、考えすぎて不安が高まってくる子どもから「家にいるのが限界」と連絡も来る。支援者（学習支援）が話を聴き、状況確認しながら対応する場面もあった。

【5】緊急期プロジェクト ヒアリング結果

フェーズ2 3月26日～4月9日

- ・ **家庭の状況によって、子どもたちに出る影響に大きな差がある。中には地域の共助のなかでなんとか生活を維持している子どももいる。**
- ・ **声をあげる子どもたちは、日ごろから、安心して打ち明けられる大人がそばにいる環境の子どもたち。**主にグループ行動をしている。ネットでつながっている。遊び以外は、グループ内で互助する様子はなく、地域とのかかわりもほとんどない。

【6】緊急期プロジェクトから 行動

わたしたち活動者の行動

緊急事態宣言下：

当事者の声を行政に届け、意見交換を行う

活動者によるアウトリーチ 支援のマッチングも
子どもたちの声を拾うしくみづくり

(学校・行政・市民組織(CSO)と連携)

緊急事態宣言解除／休校・休園措置解除

子どもたちの声を聴く 場・関係づくり



フェーズ〇期 (第2波 緊急事態宣言下)

緊急期プロジェクトヒアリング 現在の様子

休校・休園措置明け



学校再開を喜ぶ子どもたち

感染防止へのリスクの意識の違いにより、
学校へ通うことに苦痛を伴っている子どもたち

不登校になる子どもたち

(社会の矛盾を敏感に感じて、学習面の不安・
漠然とした不安などを感じて)

緊急期プロジェクトヒアリング 現在の様子

いまずること

当事者の言葉にならない声



対話によって、表現する助けに

- 気持ちに寄り添う
- 困りごとの解決を当事者と地域資源とで一緒に考える

緊急期プロジェクトヒアリング 現在の様子

休校・休園措置明け



平時の傾向から予測できること

今は、気を張って頑張っている状態
疲れている子どもたち

➡もう少し時間を置いてから表面化してくる
(2学期からでる子どもも多い)

コロナ緊急期の特徴

- 緊急期の政策下では、**すべての起点である当事者の声**<子どもの声>が拾いづらい局面に
- 有事だからといって、急に声をあげることができない。

**<何が起きているのか、
当事者の言葉にならない声>**

平時の関係性・つながり・場づくりが大切

コロナ緊急期の特性わたしたち活動者の役割

言葉にならない**当事者の声**を
代弁し、社会につなげる



- ① 平時からすべきこと（対話の関係性 等）
- ② 第2派までに構築すべきこと
（しくみ・新システムの模索 等）

- ①②を平行して行っていく

ご清聴ありがとうございました！

子どもの権利条約フォーラム inとうかい
実行委員会事務局